

南極から附中へ

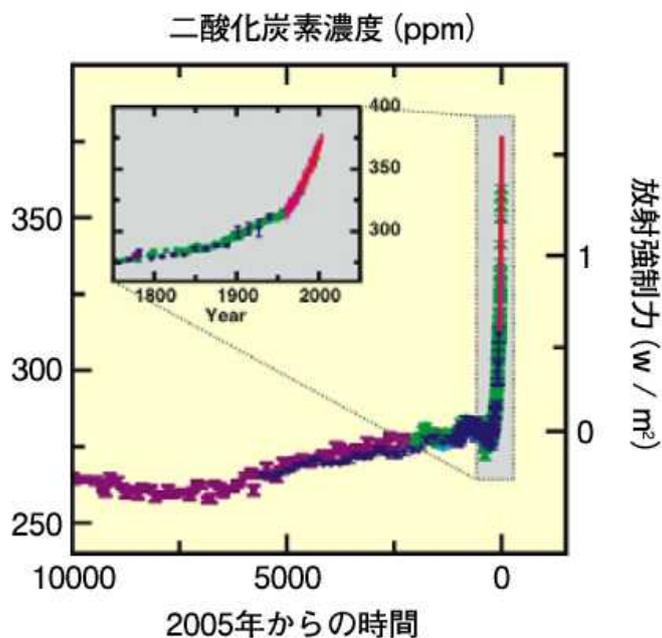
南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信 第16号 令和2年5月11日



○温室効果ガスは増えている！

- ・下の図は、過去1万年間の二酸化炭素の濃度を示しています。横軸の0が2005年、左端が1万年前です。左側の縦軸が二酸化炭素の濃度を示します。1ppmは、100万分の1を表します。約200年前までは280ppmぐらいで一定でしたが、最近200年で一気に400ppmまで増えています。これは19世紀にはじまった産業革命により人類が化石燃料を使用し始めたからです。



出典) IPCC第4次評価報告書2007

(出典) 温室効果ガスインベントリオフィス

全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

- ・最近数十年分の二酸化炭素濃度は機械で計っていますが、千年前、1万年前の二酸化炭素濃度は、南極の氷を測定しています。南極の氷は、もともとは雪で、降った雪が後から降った雪の重さによって押し固められたものです。ですから深いところにある氷は昔に降った雪で、その時の空気をそのまま保存しています。南極氷床上でボーリングをすると昔の氷を連続的に採取することができます。
- ・終業式の時に南極の氷を持ってきますので、氷の中に閉じ込められている空気（気泡）を観察してください。気泡に詰まっている空気は深いところにあつたので、圧力が加わっています。水の中で融かすとプチプチと音を立てて弾けます。